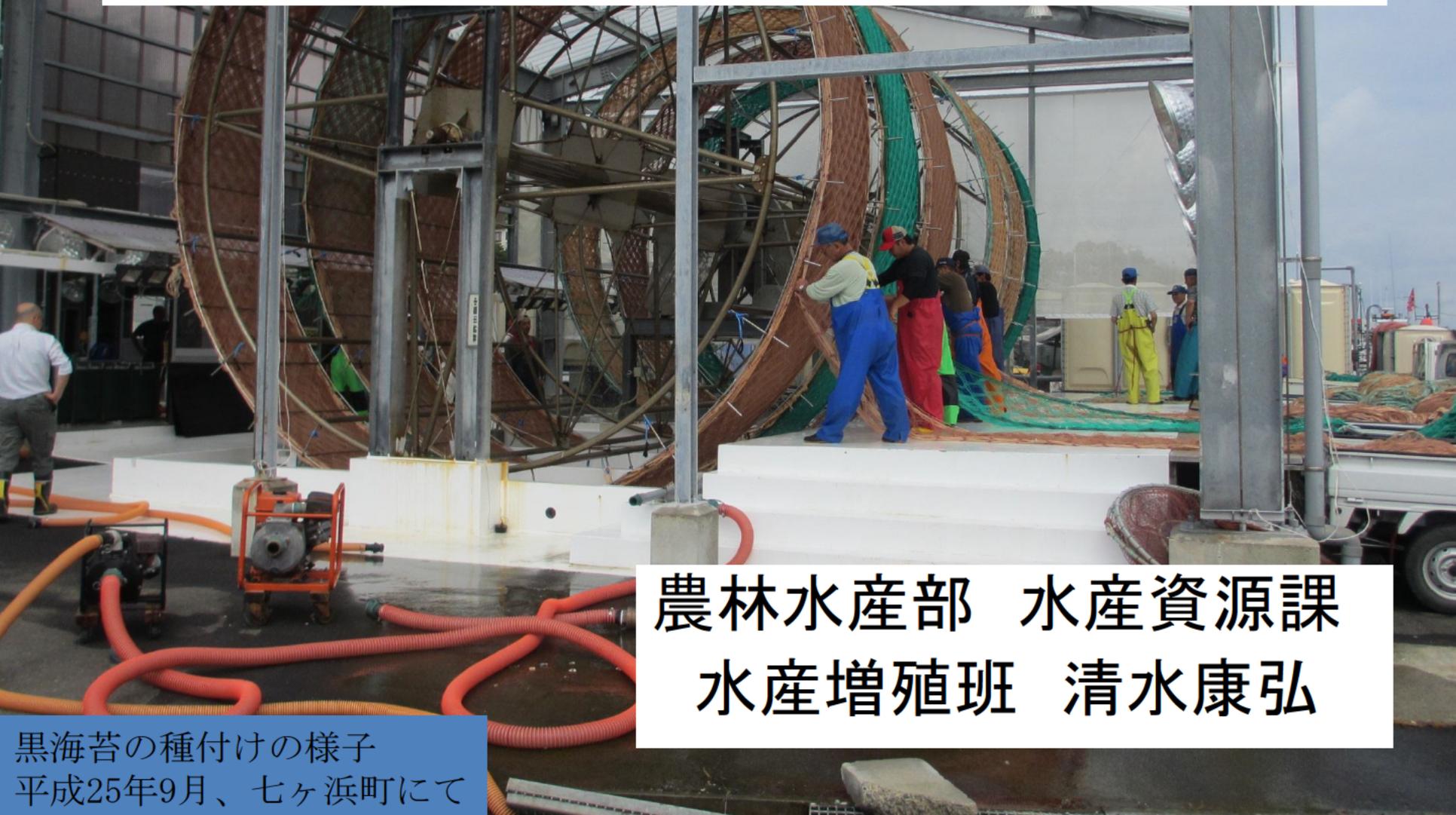


宮城県での派遣業務を終えて



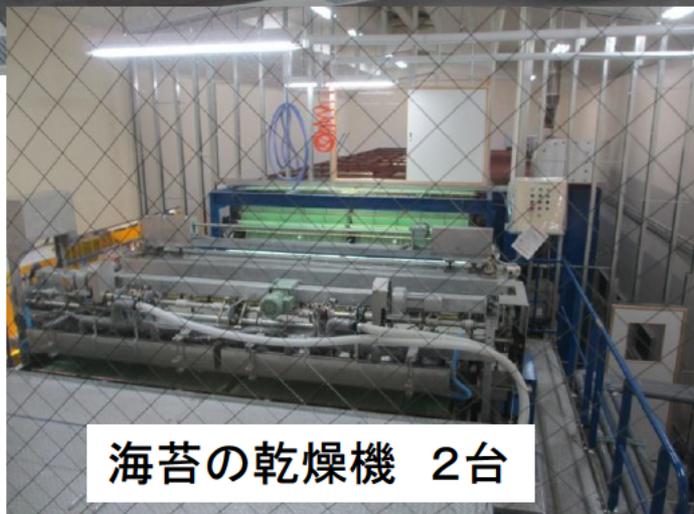
農林水産部 水産資源課
水産増殖班 清水康弘

黒海苔の種付けの様子
平成25年9月、七ヶ浜町にて

① 現状と課題(養殖関連施設)



漁具倉庫(七ヶ浜地区、完成H25年4月)



海苔の乾燥機 2台

海苔共同加工施設
(亘理地区、完成H24年4月)



力キ処理場(鳴瀬地区、完成H25年9月)

養殖関連施設の復旧整備事業

事業名：

○宮城県水産業共同利用施設(養殖等関連施設)

災害復旧支援、復旧整備事業 補助率5/6(国2/3、県1/6)

原則として

- ・原型復旧(震災前の施設、設備等と比較して、±1割以内の規模であること)
- ・共同利用施設であること(3経営体以上)
- ・汎用性のあるもの(軽トラ、プレハブ倉庫)はダメ

○宮城県養殖用資材等緊急整備事業(通称、クロネコ事業)

H23年度(補助率 5/6)、H24年度(補助率1/2)

養殖施設関連 補助事業の実施状況

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度以降
申請件数	103	25	17	4
金額（百万円）	6,428	561	200	626
実施件数	103	24	11	-
金額（百万円）	6,428	460	53	-
実施率（% 金額）	100.0	82.1	26.7	-

* H26年3月現在。H26年度は予定

- 備考：・H23年度は1次、2次、2次拡充、3次補正予算まであり、
ほとんどはH24年度中に事業が実施された。
- ・大型の施設（ノリ加工施設、カキ処理場等）の多くは整備済み。
 - ・数字は宮城県南部についてのみ。
北中部での整備事業はまだこれから。

これからの課題

- ①場所によっては、土地の嵩上げ工事が遅れており、施設整備が進んでいない(施設を建てられない)。
- ②復興予算がいつまで続くのか心配。 H27年度まで？
- ③東京オリンピック開催により、更なる資材不足、労働力不足(人件費の高騰)が懸念される。
- ④漁期中(例:鮭漁、海苔養殖等は9~12月)は、生コン*を使用する沿岸工事が出来ない。

* : 生コンリート、大量のアルカリ性物質が出て、生物に悪影響を及ぼすおそれがある。

②被災地から得られた教訓

三重県で準備すべきこと

○水産関連施設、設備等の

- ・施設管理・運営状況、耐用年数等の確認。
- ・現在の保有状況（施設の写真、利用状況等）が分かる資料の整備

⇒被災後に復旧するための申請がスムーズ。

○県、市町、漁協で、上記データの共有、保存

⇒データが消失するリスクの分散

③派遣生活で配慮して欲しいこと

メディアによる悲惨なイメージを持ったまま派遣

- ⇒ 復興がかなり進んでいたこともあり、現場の状況(人、物、仕事、住居)とのギャップを感じた。
- ⇒ 現地の情報を、派遣前に知っていれば、よりスムーズに対応できたと考えられる。
- ⇒ 派遣職員による情報発信のようなものがあれば、後発で行く人にとっては大きな安心材料となる。

ご清聴ありがとうございました。

みその漬物

いも煮

梅干し

きゅうりの漬物

利府町の梨

おひたし

トマトジュース

シソ巻き

揚げカマ

新米のコシヒカリ

10品目！

宮城県が派遣職員へご馳走してくれた、
宮城県特産の品々で作られた昼食

H25年10月9日